人間教育

創価大学教職大学院

ニュースレター

No.9

2024年
Spring

教職大学院への期待 ー創価大学学長　鈴木将史ー

創価大学の学長である鈴木将史先生より、創価大学教職大学院生への期待と使命について、創価大学の建学の精神と結びつけて語っていただきました。【ｐ２】

大学院の授業・教授紹介

特色ある創価大学教職大学院の授業。2023年度に新設された科目やコロナ禍から復活した海外研修などの紹介。また、新しく着任された教授も紹介します。【ｐ３・４】

大学院生の声・1日密着・イベント紹介

大学院生へインタビューをして、大学院の授業や教授陣への思いを語ってもらいました。1日密着取材から見えた院生の実態についても報告します！また、創価大学教職大学院の特色あるイベントも紹介しています。【P５・６】

建学の精神と教職大学院の使命

ー創価大学学長　鈴木将史ー

創価大学の創立は、1971年。それは、創価教育の父である牧口先生の生誕100年の節目でありました。牧口先生は、「創価教育学とは、人生の目的である価値を創造し得る人材を養成する方法の知識体系を意味する」と言われています。また、教育の目的観は、「自分で幸福になれる人間」、「自他ともの幸福を創造できる人間」を育成することであり、価値創造教育の目標は、社会全体を幸せにしていくことであります。さらに、牧口教育学の特徴というのは、人間の無限の可能性を信じて解き放つ価値創造にあります。

「将来、私が研究している創価教育学の学校を必ず創る」との牧口先生の悲願は、弟子の戸田先生に託されました。戸田先生も、その構想を弟子の池田先生に託され、池田先生は「私の代で必ず実現する」と宣言されました。創立者池田先生は、1964年に創価大学の設立構想を立て、71年に当初3つの学部で創価大学が開学。76年に経営学部と教育学部、20年目の1991年に工学部、30年目の2001年にはアメリカ創価大学ができました。そして、その7年後の2008年に教職大学院が誕生しました。今年が15周年、16年目となります。

2008年の3月16日に創立者が贈ってくださった教職大学院の3つの指針は、牧口教育学をベースとした創価大学の建学の精神の延長線上にあります。

【創価大学の建学の精神】
一、人間教育の最高学府たれ
一、新しき大文化建設の揺籃たれ
一、人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ

【教職大学院の３つの指針】
一、子どもの幸福を目指す慈愛の教育者たれ！
一、生命の尊厳を護り抜く正義の教育者たれ！
一、平和の世界を創造しゆく英知の教育者たれ！

つまり、教育者という立場から、「人間教育、生命の尊厳、世界平和を君たちが新たに創り出していってくれ！」という創立者からの強い期待と捉えることができます。

教職大学院の初代研究科長であられた木全先生は、「創価大学教職大学院は、牧口先生の創価教育学の精神を受け継ぎ、人間教育を担う教師養成を目指して、そのカリキュラムを創設しました。」と語られていました。さまざまな研究を通して、子どもたちの素晴らしい学習活動に目を開かれつつ、新たな実践力を高め、さらに現実的な教育課題を把握し、課題解決の方途を共同研究する授業等を設計されました。牧口先生の教育学に基づいて、その手法をしっかりと受け継いで、「実践しよう、実現しよう」と一つ一つ創ってこられました。

その上で、これからの教職大学院生に学長として期待したいミッションがあります。
◎牧口先生の精神を受け継いで、実践に立脚した研究を数多く世に問うてほしい。
◎理論と実践の往還のさらなる展開。
◎教授たちと共により一層地域を大切にした取り組みを。
◎国際交流を進展させ、世界水準の教師教育を。
◎教育界を改革するような新しい教育の創造。
◎広報に努め、プレゼンスの向上を。

創価大学　学長
鈴木　将史

以上のような取り組みを通して、「教職大学院！ここにあり！」と学内でも大いに目立っていただきたいと思います。

最後に、今年(2023年)の入学式の創立者メッセージにあった、「宇宙という大学校で学び挑め！世界市民の大連帯を語り開け！」という言葉をお互いに確認し合ってメッセージといたします。

新設科目：体験学習の計画と実践

渡辺　秀貴

学校では、相当の時間とエネルギーを費やして実施している体験学習。特に宿泊体験は、子供にとって心に残る思い出となるよう教師も力が入ります。一方で、前年度の計画をなぞりながら少しアレンジして実施するような形骸化も散見されます。コロナ禍後、成長過程で子供が多様な体験を積むことの大切さが注目され、働き方改革を進めながらも質の高い体験学習をどのように創るべきか、学校教育の大きな課題の一つです。単に時間数を調整すれば良いわけではなく、当該の学校の「目指す子供の姿」の実現に照らし、教科・領域等との関連も含め、目的とその具体化を念頭に置いて検討することが教職員に求められます。そこには、「体験」の意義や子供の成長との関係性等についての理論と、現場の教育実践から導かれる経験則とを融合させながら吟味するスキルが必要です。今年度新設の本科目では、理論を学び、これまでの体験を基にして1泊2日の「体験学習プログラム」を作成し、実施、省察という流れで学びを進めました。立場や世代等を超えた協働活動は大きな感動と充実感を生み出しました。この自らの経験が、子供の感動を生み出す原動力となるはずです。

★受講生の声★

本科目は新設科目であるため、前年度の踏襲が現実的にできない状況だったこともあり、「自分たちがこれからの歴史を創る」と前向きに捉え、履修者全員で一から考えることができました。実地踏査や学習プログラムの立案、移動時のバスレクなども、リーダー生の教職経験とプロ生のこれまでの経験を融合し、新しい形を模索しました。履修生同士で声を掛け合い、講義時間外も自然と集まり協議をすることも何度もありました。そのような学習者自らの主体的な行動と、それを支えてくださる教授陣とのやりとりの中で、体験学習の意義を改めて考えることができました。また、その過程を通して、リーダー生とプロ生の協働性も高まっていきました。

体験学習プログラム当日は、自分たちが子供たちの立場になったり、実際の引率場面を想定して教師としてどのように振る舞えばよいかなどを検討したりしながら、終始楽しく参加させていただきました。履修生以外の本学学生の参加もあったため、多くの意見を基に充実した振り返りを実施することができました。今回の素晴らしい原体験を基に、体験学習の価値を教育現場でも普及していきたいです。

教育課題実地研究：シンガポール

宮崎　猛

「教育課題実地研究（海外）」は、2008年の大学院開設当時から設置されてきた授業です。他の教職大学院には見られないユニークなプログラムとして注目をされ、また参照されてきました。私が担当するシンガポール実地研究は、新型コロナウイルスの蔓延により、今年度４年ぶりの実施となりました。本科目の大きな特徴は「参加する」ということです。見学に留まらず、実際に教壇に立つ、子どもや先生方と直接交流するという「参加」です。また、英語を使い、準備段階から学生が直接現地と連携してきました。本年度は、ペープサートや落語を披露するなどして、現地の子ども達と交流しました。先生方とは、特別支援教育などをテーマに実践レベルでの有意義な意見交換が行われました。

このプログラムは、参加学生の真剣な、そして誠実で一生懸命な頑張りの上に発展してきました。今年も終わってみればチームシンガポールとしての強い絆ができていました。人間味溢れる本当に素晴らしいプログラムだと担当教員の私たちも実感しています。いうまでもなく、自分たちの行ってきたことを客観的に知ったり、検証したり、改善したりするために「比較」はとても重要です。何でもインターネットで情報を入手できる現代だからこそ、思い切って現地に行き、直接触れ、空気を感じ、実際に参加する、そんな経験は益々重要になってきているといえるのではないでしょうか。

★受講生の声★

今年度は、無事にシンガポールにて実地研究を行うことができました。本科目担当の宮崎先生、山﨑先生のおかげで、実りある学びの機会となりました。元々、教職大学院へ進学するのなら、日本に限らず、海外の教育についてもさらに学んでみたいと考えていたため、本科目を受講できてよかったと心から感じています。実際に現地に赴き、シンガポールの教育について学び、「教育」という言葉のもつ意味合いが自分の中で大きく広がりました。シンガポールで過ごしたのは1週間でしたが、当日もそれまでの準備も含め、非常に充実した期間となりました。現地では、学校や幼稚園などの4つの教育施設をはじめ、博物館などの文化施設、歴史的な建造物などを訪ねました。その中で、多くの方との出会いもあり、貴重なお話を伺えました。院生同士の仲も深まり、大学院生活における大きな思い出となりました。この経験は、これからの教員生活においても大きな意味をもつものになると思います。貴重な経験ができたことに感謝の思いでいっぱいです。

創価大学に着任して

堀内　省剛

私は、2023年4月に教職大学院の教員として着任しました。それまでは、東京都立特別支援学校で36年間、障害のある子どもたちのための教育に携わってきました。

さて、本学で過ごす中、新たな気付きが日々あります。そこで、これまでの気付きの中で特に印象深かった点について、振り返ってみたいと思います。

1点目は、キャンパス全体が清新な雰囲気に包まれているということです。キャンパス内の道、植栽、記念碑、建物などの全てものがきれいに保たれており、日々、清々しい気持ちになります。これは、本学に関わる全ての人々の「学生の皆さんの学び」を心から応援しようとする精神の表れの一つであると感じています。

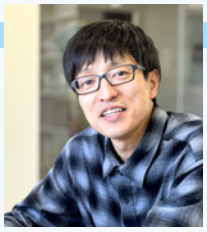
2点目は、スクールアイデンティティがとても大切にされているということです。私は、教職大学院の授業を担当していますが、学生の皆さんが、建学の精神や教職大学院の指針等を常に意識して、発言したり行動したりしていると感じています。そして、日々、子どもの幸福を願い、生命の尊厳を守り、平和世界を創造しゆく教育者を目指している姿に、これからの教育を担う人材として、強い期待を寄せているところです。

3点目は、本学で学ぶ学生の皆さんの志が高いということです。教職大学院では、様々な経歴をもつ学生の皆さんが学んでいます。学部から進学してきた学生もいれば、社会人経験を経て進学してきた学生もいます。後者の多数は、現職教員が占めていますが、経歴や年齢にかかわらず、誰もが学びに対して真摯に向き合う姿勢を見事に貫いています。そして、本学で学べることに心から感謝する言葉にあふれています。私は、このことに本学の伝統と文化といったものを感じています。

様々なことに心動かされる日々ですが、私がこれまでに感じてきた点は、本学の総合的な環境の良さや強みに関することと考えられます。私自身が特別支援教育に携わる中で特に留意していた点が、環境が人間に与える影響の大きさでした。私は、本学の素晴らしい環境は、創立以来、本学に関わる全ての人々と本学で学ぶ学生の皆さんが共に創り上げてきた賜物であると感じています。だからこそ、私も微力ながらではありますが、その環境の一部として、「学生の皆さんの学び」のために、自分の役割を真摯に果たしていきたいと思います。

大学院生の声

人間教育実践リーダーコース
中嶋　尊弘



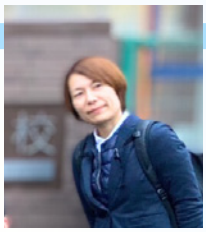
★管理職候補者としての大学院派遣に
　まず、母校に派遣していただけたことに感謝しています。私は、これまでの教職経験の中で、現場の魅力と限界のどちらも感じ、教育委員会を志望しました。教育に関わるすべての要素を見たいという思いがあったからです。授業の中で、学校現場に加えて、教育行政について学べたことはとても良い経験でした。

★この一年の学びを振り返っていかがですか。
　元々、特色あるカリキュラムに興味を抱いていた私は奈良女子大学附属小学校やきのくに子どもの村学園等で学校の様子を見ることができたのはとても大きな学びでした。しかし、現実の公立小学校は、カリキュラム・マネジメントのスタートラインに立てていない状況が散見されます。だから、教育を担う教職員をエンパワーするマネジメントに興味が移行していきました。「学校経営は人身掌握術」という側面がとても強いことを今回の研究で学んだことです。どうすれば人の心に火が灯るか、どうすれば協働し、学習する組織になれるのかという問いについて考えを深めることができました。
　また、物事をじっくり考え、心理的安全性がある場所で人は学習意欲を向上させることができると改めて実感しました。教職大学院という環境に本当に感謝しています。この一年の様々な学びを通して、やっとスタート位置につけたかなと感じています。

★教授陣への印象はいかがでしょうか。
　教員出身の先生と研究出身の先生とのケミストリーがとても興味深かったです。教育の実践知と研究知の融合は、新しい教育を創造するための必要絶対条件であると感じます。どの教授にも好印象ですし、とても感謝しています。特に、研究においては、時間を問わず一対一で指導してくださいました。学生第一の姿勢に、人間教育を垣間見た思いです。この方々には遠慮なく質問できる、という安心感がありました。

★最後に、これから教職大学院を目指す方へ一言。
　とても前向きな意味で新たな迷いをいただけると思います。それは、そのまま私たち教師が子供たちに求めている探究的な学びだとも感じます。また、自らが学生として授業を受ける経験は、自分の授業実践を省察する最高の契機になりますよ。自分にとって発見の連続になることは間違いありません。迷わずチャレンジしてほしいと思います。

人間教育実践リーダーコース
眞田　侑美



★大学院に行こうと思ったきっかけを教えてください。
　現場でより良い実践をするための力をつけたかったことがきっかけです。これまで、きちんとした理論を学ぶ機会がなかなかなかったので、やりたいことがあってもきちんと周りに説明できずに、もどかしさを感じていました。夢や理想を語るだけでは、管理職を含めた同じ学校の先生たちに納得して一緒に取り組んでもらうことはできないからです。

★なぜ創価大学教職大学院を選んだのですか？
　妹が創価大学の卒業生で、何度も話を聴く中で私自身もいつか創価大学で学びたいと願っていたからです。また、創価大学の通信教育部で教員免許を取得したのですが、スクーリングで何度か通わせてもらう中で、素敵な環境だと感じていたことも理由の一つです。

★大阪からの出願でしたが不安はなかったのですか？
　不安がなかったわけではないですが、創価大学ならきっと大丈夫という確信がありました。幸いにも所属校の管理職も快く送り出してくれました。

★実際に来て学んだ感想はいかがですか？
　一言で言えば最高です。最新の教育情勢に触れられることや、今まで実践してきたことを改めて振り返ることができました。さらに、仲間との議論の中で新たな発見や感動がたくさんありました。一緒に学んでいる同期の学生や教授にも、巡り合うべくして巡り合っているという縁を感じています。

★教授陣にはどんな印象がありますか？
　大学教授がこんなにフラットに接してくださるのかと驚くほど、とても身近な存在です。現役の大学生の頃には経験できませんでした。少し失礼ですが、同じ学校で働いている大先輩という立ち位置でいてくださるような感覚です（笑）教職を10年以上経験して来ているから、そういう風に教授の方たちも信頼してくださっているのかなと感じています。

★最後にこれから受験を考えている方に一言
　迷っているのであれば、絶対に来た方がいい！！今のあなたにぴったりの学びがきっとあるはずです。

人間教育実践プロフェッショナルコース
池田　桃香

★教職大学院に進学しようと思ったきっかけ
　私は理工学部出身で、中学校の数学科を専門に学んできました。教職大学院に進学しようと思ったきっかけは、4年次、教員になる上での自身の未熟さに悩み、教員という仕事について、もっともっと学びたいと思ったからです。

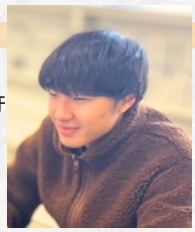
★実際に教職大学院で学んだ感想
　教職大学院に来られて良かったと感じています。同じプロフェッショナルコースでも校種も専門性も様々で、加えて、経験の多いリーダーコースの先生方と一緒に学ぶことができて、毎日が刺激と楽しさでいっぱいです。

★大学院にきて一番よかったなと思うこと
　「人間教育」について学び、考える機会があったのは良かったと感じます。自分の教育観を見つめ直したり、他の人の教育観から学びを得たりできました。

★教授陣への印象
　ゼミの指導教員である渡辺秀貴先生はユーモアがあり、視座が高く、話される内容はいつも学びになります。私たち学生のことをすごく考えて下さっている先生です。
　教職大学院の先生方は、どの先生も持ち合わせている知識や考え方を惜しみなく教えて下さります。また、それぞれの先生が個性に溢れていて面白いです。

★これから教職大学院を考えている人へ一言
　少しでも「もっと教育について学びたい」という思いがあるならば、教職大学院で学ぶことは糧になると思います。大学卒業してすぐでも、働きながらでも、自分がベストだと感じられるタイミングで挑戦してみてください。

人間教育実践プロフェッショナルコース
内川　貴之



★教職大学院に進学しようと思ったきっかけ
　私は文学部出身で、中・高の英語科を専門に教員免許を取得しました。文学部では、英語の教育法などは学んできましたが、生徒指導の方法や学級経営の方法については経験が足らず、より専門的に学びたいと思い、教職大学院に進学しました。

★実際に教職大学院で学んだ感想
　やはり、少人数で学べる点がいいと思います。学び合いのコミュニティが多くあり、ディスカッション重視で授業ができることが強みです。また、リーダーコースとプロコースの距離感が近く、学校現場で経験を多く重ねてきた人から学ぶなかで新たな考えが生まれるところが素晴らしいと感じています。

★大学院にきて一番よかったなと思うこと
　実践の機会が多くあったことです。半年間の実習を通して「この指導法で通用するはずだ」と思っていたことが実際にやってみるとうまくいかず、「この方法ではだめなんだ」と何度も気づかされました。その都度、教職大学院の先生方やリーダーコースの方々からアドバイスをいただき、自分自身の振り返りの機会が得られ、理論と実践の往還の大切さを実感しました。

★教授陣への印象
　親身に相談に乗っていただき、授業でも受講者に発言を促してともに授業を作っているイメージが強いです。距離が近いので自分たちの意見をしっかりと受け止めてくれる安心感があります。さらに、教職大学院を語る会などもあり、自由に意見が言いやすい関係性だと感じています。

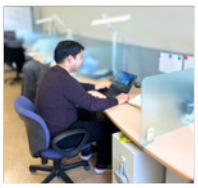
★これから教職大学院を考えている人へ一言
　教職大学院では、いままで以上に、様々な学びが深められると思います。学習指導の方法論だけでなく、教育とは何かという根本的な部分に立ち返って学ぶことができるのでそうした部分をもっと学びたい人はぜひ来てほしいと思います。

大学院生1日密着

集中して勉強する時間と、遊んだりリラックスしたりする時間のメリハリを意識して生活しています。また、「楽しみながら学ぶ」ということをモットーに、日々の授業や院生との会話・ディスカッションに臨んでいます。入学前は、大学院に行こうかどうか、とても迷いましたが、今は「来てよかった！」と胸を張って言えます。
ぜひ皆さんも、価値ある寄り道だと思って、大学院に挑戦してみてください！

ラウンジでリラックスタイム!

授業中も
楽しくディスカッション!



自分の机で自習時間

美味しい学食最高!!

1日のスケジュール

7:30～ 8:30	起床・朝準備
8:30～ 9:30	移動
9:30～10:45	課題・準備等
10:45～12:15	授業
12:15～13:05	昼食
13:05～16:20	授業
16:20～17:30	休憩・課題
17:30～18:30	帰宅
18:30～20:30	夕食・入浴
20:30～21:30	課題
21:30～23:30	自由時間
23:30～ 7:30	睡眠

イベント紹介

様々な学校訪問
教育課題実地研究

本年度は、富山市立堀川小学校や奈良女子大学附属小学校、きのくに子どもの村学園、郁文館グローバル高等学校など、特色ある学校を訪問しました。実際の様子を現地で学び、多くの気づきを得られました。
また、国外では、シンガポールにて創価幼稚園や現地の学校を訪問しました。「教育課題実地研究（国内・国外）」は、創価大学教職大学院の大きな魅力の一つです！

教職特別講座
教職スタートダッシュ講座

11月には、リーダーコースの院生による教職特別講座を開催しました。
現職教員としての強みを生かして、教育実習に行く学生や、４月から入職する学生に向けて、心構えや準備についての講義を行いました。参加者からは、「現場の先生たちの生の声を聴くことができるとても貴重な機会でした」といった声が寄せられました。
2・3月には、教職スタートダッシュ講座も予定されています。

新入生歓迎会
修了生パーティー

4月には新入生歓迎会、3月には修了生パーティーが開催されます。このような大学院全体のイベントを通して、院生だけでなく教授も含めた多くの人と交流し、親睦を深めていくことができます。これらは、教職大学院の伝統にもなっています！
また、年度初めには、歓迎会に加え、ガイダンス等も充実しており、安心感と見通しをもって大学院生活を始めることができます。